

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅲ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。

鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るために人体の正常な構造を詳しく理解し、解剖学の国家試験問題の解法を展開しながら応用力を養う。

〔到達目標〕

今まで学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験鍼灸治療に役立てられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
医歯薬出版「解剖学第2版」	授業内容の復習を継続的に行うこと。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	第2章 循環器系①	心臓の構造を理解する。
2	第2章 循環器系②	動脈系の構造を理解する。(胎児循環を含む)
3	第2章 循環器系③	静脈系の構造を理解する。
4	第2章 循環器系④	リンパ系の構造を理解する。
5	確認テスト	1～4で習得した知識の再確認ができる
6	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器の構造を理解する。
7	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器の構造を理解する。
8	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路の構造を理解する。
9	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路の構造を理解する。
10	第6章 生殖器系	女性生殖器、男性生殖器の構造を理解する。
11	第4章 消化器系	上部消化管の構造を理解する。
12	第5章 消化器系	下部消化管、消化腺の構造を理解する。
13	第6章 消化器系	総復習をする
14	期末テスト	問題の解法が導きだせるようになる。
15	期末テスト解説	期末試験の解答解説を行う。

〔評価について〕	〔特記事項〕
評価は 筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。									
鍼灸の教員が、医療の基礎となる生理学を各分野ごとに演習し、知識を深める授業を行う。									
〔到達目標〕									
医療系を志す者にとっての基礎となる科目であり、他の応用科目の礎となる内容であるため、しっかり理解を深める。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
生理学(医歯薬出版)					演習問題を中心に復習を行うこと。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第1章(生理学の基礎)の演習				生理学の基礎の分野について理解を深める				
2	第4章(消化と吸収)の演習				消化と吸収の分野について理解を深める				
3	第5章(代謝)の演習				代謝の分野について理解を深める				
4	第8章(内分泌)を演習				内分泌の分野について理解を深める				
5	第9章(生殖・成長と老化)の演習				生殖・成長と老化の分野について理解を深める				
6	第10章(神経一般)の演習				神経一般の分野について理解を深める				
7	第10章(自律神経)の演習				自律神経の分野について理解を深める				
8	確認テスト				履修範囲の習熟度を確認し更に理解を深める				
9	テスト返却。第6章(体温)の演習				体温の分野について理解を深める				
10	第2章前半[循環(血液)]の演習				循環(血液)の分野について理解を深める				
11	第14章(生体防御機構)の演習				生体の防御機構の分野について理解を深める				
12	第2章後半[循環(心臓)]の演習				循環(心臓)の分野について理解を深める				
13	第3章(呼吸)の演習				呼吸の分野について理解を深める				
14	第7章(排泄)の演習				排泄の分野について理解を深める				
15	期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認・期末テストに加算する場合もある。確認テストと期末テストの合計点が60点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。					必要に応じプリントを配布する。 既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
	臨床医学各論Ⅱ								

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。

主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

〔到達目標〕

臨床現場で必要な鑑別能力を身に付け、国家試験合格の為に十分な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学各論（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

復習と予習を継続的に行うこと

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	第9章 循環器疾患（心臓疾患、冠動脈疾患）	心臓疾患、冠動脈疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
2	第9章 循環器疾患（動脈疾患、血圧異常）	動脈疾患、血圧異常の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
3	第10章 血液・造血器疾患（赤血球疾患、白血球疾患）	赤血球疾患、白血球疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
4	第10章 血液・造血器疾患（リンパ網内系疾患）	リンパ網内系疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
5	要点整理。総復習	授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。
6	評価試験 解説	授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。
7	第11章：神経疾患 脳血管障害、解剖学復習	梗塞、出血、クモ膜下出血における言葉の定義と病態を理解する。
8	第11章：神経疾患 運動ニューロン疾患	錐体路障害における言葉の定義と病態を理解する。
9	第11章：神経疾患 基底核変性疾患	錐体外路疾患における言葉の定義と病態を理解する。
10	第11章：神経疾患 その他の変性疾患	小脳疾患における言葉の定義と病態を理解する。
11	第11章：神経疾患 筋疾患、機能的疾患	筋疾患、頭痛における言葉の定義と病態を理解する。
12	第11章：神経疾患 認知症性疾患	認知症における言葉の定義と分類、病態を理解する。
13	第11章：神経疾患 感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	感染性疾患と腫瘍における言葉の定義と病態を理解する。
14	第11章：神経疾患 末梢性神経疾患	末梢神経疾患における言葉の定義と病態を理解する。
15	第11章：神経疾患 神経痛	神経痛における言葉の定義と病態を理解する。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間評価テスト50点と期末テスト50点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

プリント（データ）を配布し授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
	臨床医学各論Ⅱ								

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。

主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

〔到達目標〕

臨床現場で必要な鑑別能力を身に付け、国家試験合格の為に十分な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学各論（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

復習と予習を継続的にを行うこと

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	第12章：リウマチ性疾患、膠原病 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
17	第12章：リウマチ性疾患、膠原病 膠原病 確認テスト	膠原病の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
18	第13章：その他の領域 小児科、一般外科 確認テスト	小児科、一般外科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
19	第13章：その他の領域 一般外科、麻酔科 確認テスト	一般外科、麻酔科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
20	第13章：その他の領域 婦人科疾患、皮膚科疾患 確認テスト	婦人科疾患、皮膚科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
21	第13章：その他の領域 眼科疾患、耳鼻科疾患 確認テスト	眼科疾患、耳鼻科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
22	第13章：その他の領域 精神科疾患、心療内科 確認テスト	精神科疾患、心療内科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
23	臨床検査基準値 確認テスト	検査項目と各疾患の関係について理解できる。
24	要点整理・過去問題・練習問題 感染症、消化器疾患、肝・胆・膵臓疾患 確認テスト	感染症、消化器疾患、肝・胆・膵臓疾患の問題について正答肢を選択することができる。
25	要点整理・過去問題・練習問題 呼吸器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患	呼吸器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患の問題について正答肢を選択することができる。
26	要点整理・過去問題・練習問題 整形外科疾患	整形外科疾患の問題について正答肢を選択することができる。
27	要点整理・過去問題・練習問題 神経疾患	神経疾患の問題について正答肢を選択することができる。
28	要点整理・過去問題・練習問題 循環器疾患、血液・造血器疾患	循環器疾患、血液・造血器疾患の問題について正答肢を選択することができる。
29	要点整理・過去問題・練習問題 リウマチ性疾患、膠原病、その他の領域	リウマチ性疾患、膠原病、その他の領域の問題について正答肢を選択することができる。
30	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は中間評価テスト50点と期末テスト50点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

プリント（データ）を配布し授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	関係法規	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
								鏡 佳法	

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師として業を行うために必要な法的要件を講義形式で行う。

〔到達目標〕

あはき業に従事する上で理解しておくべき法令を学び、医療従事者としての知識を深めることを目的とする。

〔使用教材、参考文献等〕

関係法規（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

臨床上必要な知識であるため、予習復習を行い知識定着に努める。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 「法とは何か」「あはき法の法制定の目的」	医療関係の法の目的について理解できる。
2	あはき法 免許と試験	免許の要件や試験について理解できる。
3	あはき法 業務①	業務の範囲や施術所の要件を理解できる。
4	あはき法 業務②	広告の制限や医療行為について理解できる。
5	あはき法 学校・養成施設、罰則について	学校の教育内容、施設などについて理解し罰則について理解できる。
6	関係法規 医療法	医療法規の大要を把握することができる。
7	医師法 その他の医療従事者に関する法律	医師法について理解し、医療従事者の資格法の差異を理解することができる。
8	薬事法規 保健一般に関する法律 確認テスト	医薬品、医療機器等の有効性及び安全性確保に関する法律を理解することができる。
9	衛生に関する法律	母体保護法や精神障害者福祉に関する法律を理解することができる。
10	社会福祉関係法規	社会福祉法の概要を把握することができる。
11	健康保険法、国民健康保険法	健康保険法と国民健康保険法の差異を理解することができる。
12	高齢者の医療 介護保険法	高齢者の医療に関する法律と介護保険法の概要を理解することができる。
13	生活保護法 医療保険制度	わが国の医療保険制度を理解する。
14	要点整理 総復習	関係法規全般を復習し、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、解説によって理解を深めることができる。

〔評価について〕

筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	—
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 鍼灸治療院勤務、トレーナー帯同、開業を経験してきた教員がリハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕 国家試験に向けての理解を深め、各疾患のリハビリテーションを学んで卒業後にも役立つアプローチを学ぶ。									
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学 (医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	脳卒中のリハビリテーション				脳卒中がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
2	脳卒中のリハビリテーション				脳卒中がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
3	切断のリハビリテーション				切断の原因と分類を学びがどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
4	脊髄損傷のリハビリテーション				脊髄損傷がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
5	脊髄損傷のリハビリテーション				脊髄損傷がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
6	確認試験				確認試験で現状把握し今後の学習に役立てる				
7	小児のリハビリテーション				小児のリハビリテーションの特徴を理解する				
8	骨関節疾患のリハビリテーション				骨関節疾患がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
9	関節リウマチのリハビリテーション				関節リウマチ疾患がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
10	末梢神経障害のリハビリテーション 復習				末梢神経障害がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
11	確認試験 問題演習				確認試験で現状把握し今後の学習に役立てる 問題演習で国家試験に向け力をつける				
12	パーキンソン病のリハビリテーション				パーキンソン病がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
13	呼吸器疾患のリハビリテーション 問題演習				呼吸器疾患がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
14	心疾患のリハビリテーション				心疾患がどのような疾患かを理解し、評価及びリハビリテーションを学ぶ				
15	期末試験 解説				試験により効果測定を行い習得できていないところをはあくし理解度を深める				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う 確認試験2回(25点×2=50点)と期末試験50点の合計100点で評価する					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						藤掛 雅博			
東洋医学特論		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。									
東洋医学的な診察病態把握に必要な基礎的な知識や理解を深める授業を行う。									
〔到達目標〕									
今まで学習した東洋医学の知識を統合させ、国家試験鍼灸治療に役立てられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
新版東洋医学概論（医道の日本社） 新版経絡経穴概論（医道の日本社）					授業は要点をまとめて進めるため東洋医学概論と経絡経穴概論の復習は行うこと。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第1章 東洋医学の特徴				東洋医学の特徴を理解する。				
2	第1章 東洋医学の特徴				東洋医学の特徴を理解する。				
3	第2章 生理と病				蔵象と病証を理解する。				
4	第2章 生理と病				蔵象と病証を理解する。				
5	第3章 東洋医学の思想				陰陽や五行を理解する。				
6	確認テスト				1～5コマで習得した技術の再確認ができる。				
7	第3章 東洋医学の思想				陰陽や五行を理解する。				
8	第4章 四診				四診を理解する。				
9	第4章 四診				四診を理解する。				
10	第4章 四診				四診を理解する。				
11	第5章 弁証論治				弁証論治を理解する。				
12	第5章 弁証論治				弁証論治を理解する。				
13	第5章 弁証論治				弁証論治を理解する。				
14	期末テスト				問題の解法が導きだせるようになる。				
15	解答解説				期末試験の解答解説を行う。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は 筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						藤井 優子			
東洋医学臨床論Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。									
過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を目指す。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。									
〔到達目標〕									
鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、生活指導まで行える鍼灸師を目指す。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)					予習課題を実施				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	「疲労と倦怠」を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				疲労と倦怠を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
2	東洋医学基礎の確認「発熱」の西洋医学的・東洋医学的メカニズムを確認する。				発熱を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
3	「冷え」を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				冷えを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
4	「のぼせ」を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				のぼせを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
5	「浮腫」を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				浮腫を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
6	「掻痒感」を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				掻痒感を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
7	確認テスト①				疲労と倦怠、発熱、冷えのぼせ、浮腫、掻痒感について学習した内容を確認する。				
8	顔面神経麻痺を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				顔面神経麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
9	顔面神経麻痺を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				顔面神経麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
10	歩行異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				歩行異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
11	口渇を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				口渇を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
12	出血傾向を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				出血傾向を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
13	月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
14	月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。				月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。				
15	確認テスト②				顔面神経麻痺、歩行異常、口渇、出血傾向、月経異常について学習した内容を確認する。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
筆記試験にて評価を行う。確認テストと期末試験を実施する。(合計100点で評価を行い、確認試験75%、期末試験25%の換算点で評価を出す)									

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。
 過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を目指す。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。

〔到達目標〕
 鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、生活指導まで行える鍼灸師を目指す。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)	予習課題を実施

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	性器出血を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	性器出血を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。
17	帯下を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	帯下を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
18	不妊症を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	不妊症を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
19	悪阻・逆子の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	悪阻・逆子の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
20	乳汁分泌不全の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	乳汁分泌不全の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
21	小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
22	小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
23	確認テスト①	女性疾患・小児の疾患について理解し問題を解くことができる。
24	老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
25	老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることができる。
26	経絡流柱を確認し筋と経穴の関係を確認する。	経絡流柱と筋と経穴の関係を理解する。
27	運動麻痺・デルマトームと経穴の関係を確認する。	運動麻痺・デルマトームと経穴の関係を理解する。
28	十二経脈病証について確認し国家試験の傾向を把握する。	十二経脈病証について理解する。
29	奇経の病証・配穴法を確認する。	奇経の病証・配穴法について理解する。
30	確認テスト②	老年の徴候、経脈病証を理解し問題を解くことができる。

〔評価について〕	〔特記事項〕
筆記試験にて評価を行う。確認テストと期末試験を実施する。(合計100点で評価を行い、確認試験75%、期末試験25%の換算点で評価を出す)	

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						大石 知絵子			
東洋医学臨床実践		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臓腑弁証の基本的な処方方を講義する。実践することで、自分が臨床現場に出るから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。									
〔到達目標〕									
東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臓腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
ずっと使える！鍼灸BOOK 中医臨床のための舌診と脈診(東洋学術出版社)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	導入・舌診と脈診				中医学の概要と舌診・脈診について理解できる				
2	舌診と脈診				舌診と脈診の臨床応用を理解できる				
3	気虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
4	気滞証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
5	血虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
6	血瘀証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
7	陰虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
8	痰湿証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる				
9	確認テスト1				気血津液弁証の理解度を確認する				
10	臓腑弁証の処方1				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる				
11	臓腑弁証の処方2				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる				
12	臓腑弁証の処方3				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる				
13	臓腑弁証の処方4				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる				
14	臓腑弁証の処方5				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる				
15	確認テスト2				臓腑弁証の理解度を確認する				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記・実技試験で行う。評価は学則規定に準ずる。 確認テスト1、2(各25点満点)					白衣着用、サンダル使用、爪を短く切っておくこと。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診(東洋学術出版社)、必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						大石 知絵子			
東洋医学臨床実践		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臓腑弁証の基本的な処方方を講義する。実践することで、自分が臨床現場に出るから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。									
〔到達目標〕									
東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臓腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
ずっと使える！鍼灸BOOK 中医臨床のための舌診と脈診(東洋学術出版社)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	中国鍼				中国鍼の刺鍼操作を実践する				
17	中国鍼				催気法と動的補瀉法を学ぶ				
18	中国鍼				中国鍼の刺鍼と動的補瀉法の復習				
19	確認テスト3				中国鍼の刺鍼と動的補瀉法				
20	頭皮針				朱氏頭皮針を実践する				
21	頭皮針				朱氏頭皮針を実践する				
22	頭皮針				朱氏頭皮針を実践する				
23	督脈通陽法				督脈に灸頭鍼を施す				
24	皮内鍼				皮内鍼の基本操作を実践する				
25	経筋学				経筋学を学ぶ				
26	経筋学 手三陰経筋 肩関節				経筋を用いた治療法を実践する				
27	経筋学 手三陰経筋 頸部				経筋を用いた治療法を実践する				
28	経筋学 手三陰経筋 股関節				経筋を用いた治療法を実践する				
29	経筋学 手三陰経筋 腰部				経筋を用いた治療法を実践する				
30	期末試験				経筋学				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記・実技試験で行う。評価は学則規定に準ずる。 確認テスト3、期末試験(各25点満点)					白衣着用、サンダル使用、爪を短く切っておくこと。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診(東洋学術出版社)、必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						小池 俊治			
	特殊はりきゅう実技	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

古代九鍼の継承と実践を行う団体に所属する鍼灸師が、毫鍼だけでなく刺絡鍼法・火鍼などの特殊鍼法を実技で実践する授業を行なう。実技と合わせて、中医弁証の実際についても講義を行い、証を立てて治療方針が立てられるようにする。

〔到達目標〕

九鍼の考え方、実際の使用方法に至るまでを学習、実践できるようになる。また、渡洋医学概論・臨床論の復習を行い、自分の力で症例を解いて、治療方針を立てられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論 (医歯薬出版)
ビジュアルでわかる九鍼実技解説

〔準備学習・時間外学習〕

実技に関しては、特殊な鍼法なので、授業に集中すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス 中医基礎理論の全体構造 毫鍼実技	中医基礎理論の全体像が理解できる。
2	症例トレーニング① 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
3	症例トレーニング② 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
4	症例トレーニング③ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
5	症例トレーニング④ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
6	症例トレーニング⑤ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
7	確認テスト	筆記試験で効果測定を行なう。
8	刺絡についての講義と実技①	刺絡についての理解を深めることができる。
9	刺絡の実技②	刺絡についての理解を深めることができる。
10	刺絡の実技③	刺絡の実技が出来るようになる。
11	刺絡の実技④	刺絡の実技が出来るようになる。
12	火鍼についての講義と実技①	火鍼についての理解を深めることができる。
13	火鍼の実技②	火鍼の実技が出来るようになる。
14	総合実技	これまで学んだ実技を組み合わせで治療できる。
15	期末テスト	筆記試験で効果測定を行なう。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じプリントが配布される。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	古典経絡治療学	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
		藤井 優子							

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、筋・骨などの局所治療の知識だけでなく、鍼灸治療の根幹をなす「経絡」の変動から患者の不調を見極める鍼灸師を目指す。主に経絡治療の基礎である陰陽の概念の習得や脈診・腹診・切経を用いた診断技術の向上を目指す。

〔到達目標〕

四診を用いて患者の診察・診断を行い1人で治療方針を組み立てる事が出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

経絡治療のすすめ (首藤傳明)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡治療の基本的な考え方。本治法、標治法について。脈診を行う姿勢を学び実践する。	本治法・標治法の違いを理解する。正しい姿勢で脈を取ることが出来る。
2	六部定位脈診を行う。脈診部での臓腑配当を理解し目的の深さ・位置で脈の状態を把握する。	臓腑配当を理解する。自分がどの深さで何を診るのかを明確にし最も弱い部位を探し出す事が出来る。
3	六十九難による配穴法。六部定位脈診によって得られた情報から経穴を選び、刺鍼によって脈に変化が	六十九難の配穴法を理解し、経穴を正しく選ぶことが出来る。
4	祖脈診を行う。浮・沈・遅・数・虚・実を見極め、患者の全身状態を把握できるようにする。	祖脈の意味、どの深さで何を診るのかを理解し全身状態を把握することが出来る。
5	俞刺鍼を行う。背部俞穴を用い患者の全身治療を行う。俞刺による脈状の変化をみる。	背部俞穴を用いる意義を理解する。鍼による全身への効果を脈の変化から感じられる。
6	確認テスト。脈診の基礎である六部定位脈診・祖脈診と難経六十九難の配穴の確認を行う。	六部定位脈診・祖脈診の意義を理解し、六十九難の配穴法を用いて経穴を選択することが出来る。
7	腹診を行う。腹診の意義、腹部の触診の仕方を学び実践する。	腹診を行う意義を理解し、患者に不快感を与えることなく触診できる技術を身につける。
8	腹診を行う。腹診から得られた情報と脈診を照らし合わせ全身状態を把握し治療方針を検討する。	腹診と脈診の情報から全身状態を把握することができる。
9	経筋病(上肢)：経筋とは何か理解し上肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	上肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
10	経筋病(下肢)：経筋とは何か理解し下肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	下肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
11	体質と病証の関係を理解する。脈診、腹診などの症状と体質の関係を理解し治療方針を立てる。	体質と病証の関係を理解し、治療方針を立てることができる。
12	問診練習：必要な患者情報を引き出す。	治療方針を検討するために必要な患者情報を適切に引き出すことができる。
13	グループワーク：5人1組で問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカル	患者情報から治療方針を組み立て実践することができる。
14	期末テスト：問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。
15	期末テスト：問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。

〔評価について〕

確認テスト：筆記試験(50点満点)、期末テスト：レポート提出(50点満点)の合計100点で評価する。評価基準は学則に準ずる。

〔特記事項〕

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						山田 英史			
	はきの適応判断学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、病態生理学、臨床医学総論、臨床医学各論で得た知識を基に、患者の症状から病態を把握し、鍼灸治療の適応の可もしくは否かを的確に判断することで実際の臨床に役立つ知識を習得するための授業を展開する。

〔到達目標〕

東洋医学的な診断方法を習得し、その診断から治療方針などをたてて実際に治療できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技基礎編(医道の日本)、臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論

〔準備学習・時間外学習〕

臨床医学各論や臨床医学総論、病理学などを復習する。復習することで臨床に向けての心構えを養う。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	腰下肢痛 関節痛 運動麻痺	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
2	肩こり 頸肩腕痛 肩痛	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
3	頭痛 顔面痛 歯痛 眼精疲労	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
4	咳嗽 鼻閉鼻汁 眩暈	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
5	耳鳴り 難聴 息切れ	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
6	動悸 胸痛 腹痛	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
7	確認試験 解説	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
8	便秘 下痢 排尿障害	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	食欲不振 肥満 やせ(るいそう)	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
10	発熱 冷え・のぼせ 不眠 疲労倦怠	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
11	発疹 ショック 易疲労感 出血傾向	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
12	貧血 眼振 嘔声 嚥下困難	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
13	血痰 咯血 悪心嘔吐	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
14	吐血 下血 意識障害	症状から病態を鑑別し、鍼灸治療の適応かどうかを判断できるようになる。
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	OSCE II	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師養成に係わる様々な教員が、卒業規定のひとつである認定実技試験に合格できるための授業等を行う。臨床の現場でも必須となる内容であることを意識し受講してほしい。									
〔到達目標〕									
卒業後、臨床現場で速やかに行動できるよう、治療を行う上での流れ、患者への対応、治療方針を考える力を養う。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
各授業、各教員の指示による ずっと使える！鍼灸臨床BOOK (滋慶出版)					履修済みである医療面接・検査法は実践形式で行える様、復習をすること。また、実技においては繰り返し練習すること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 臨床実習、認定実技試験について				3年次に行う臨床実習および認定実技試験についての概要を理解する。				
2	医療面接の確認① 要点確認				医療面接の重要性・ポイントを理解する。				
3	医療面接の確認② 実践1				医療面接での質問必要項目を理解する。				
4	医療面接の確認③ 実践2				医療面接で必要項目を聞けるようになる。				
5	検査法の確認① 徒手検査				徒手検査の意義・重要性を理解する。				
6	検査法の確認② ROM				ROMの意義・重要性を理解する。				
7	検査法の確認③ 検査法ブースの内容総復習1				徒手検査・ROMなどを正確に行うことができるようになる。				
8	検査法の確認④ 検査法ブースの内容総復習2				徒手検査・ROMなどを正確に行うことができるようになる。				
9	人体施術の確認① 鍼実技				直刺・斜刺・横刺を正確に行うことができる。				
10	人体施術の確認② 灸実技				指定された艾炷の大きさで、透熱灸・知熱灸ができる。				
11	医療面接・検査法の復習				課題に従い、医療面接・検査法を正確に行うことができる。				
12	人体施術の確認③ 鍼灸実技				課題に従い、鍼および灸施術を正確に行うことができる。				
13	実技認定対策① 鍼灸実技				限られた時間内で医療面接・検査法を正確に行うことができる。				
14	実技認定対策② 鍼灸実技				限られた時間内で鍼および灸施術を正確に行うことができる。				
15	振り返り				医療面接からはりぎゅう施術に至る一連の施術をスムーズに行うことができる。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
筆記・実技による試験、また課題提出をして評価とする。									

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						進藤 千聖			
臨床はりきゅう実技		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60 (2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。
主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。
様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	基本的な刺鍼方法 (短鍼)	短鍼の扱い方と刺鍼方法について基本操作を習得する。
2	美容鍼灸「基礎編」①	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
3	美容鍼灸「基礎編」②	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
4	美容鍼灸「基礎編」③	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
5	美容鍼灸「基礎編」④	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
6	美容鍼灸「基礎編」⑤	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
7	美容鍼灸「基礎編」⑥	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
8	美容鍼灸「基礎編」⑦	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
9	美容鍼灸「基礎編」⑧/確認試験 (筆記)	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
10	美容鍼灸「基礎編」⑨	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
11	美容鍼灸「基礎編」⑩	顔面部の構造を理解し目標とする組織への刺鍼が適切にできる。
12	美容鍼灸「応用編」①	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
13	美容鍼灸「応用編」②	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
14	美容鍼灸「応用編」③	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
15	確認試験 (技術確認)	基礎編で習得した技術確認を行い適宜フィードバックを行うことができる。

〔評価について〕

点数配分：確認試験50点 (筆記30点、技術確認20点) 期末試験50点 (筆記20点、技術確認30点) の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じてプリントをアップする。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						進藤 千聖			
臨床はりきゅう実技		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60 (2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。
主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。
様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	美容鍼灸「応用編」④	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
17	美容鍼灸「応用編」⑤	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
18	美容鍼灸「応用編」⑥	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
19	美容鍼灸「応用編」⑦	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
20	美容鍼灸「応用編」⑧	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
21	頭部・顔面部の症状別施術①	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
22	頭部・顔面部の症状別施術②/期末試験(筆記)	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
23	頭部・顔面部の症状別施術③	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
24	頭部・顔面部の症状別施術④	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
25	頭部・顔面部の症状別施術⑤	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
26	頭部・顔面部の症状別施術⑥	各疾患の病態を理解し適切な施術を行うことができる。
27	自律神経調整の方法と施術①	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
28	自律神経調整の方法と施術②	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
29	自律神経調整の方法と施術③	症状に応じた施術を適切に行うことができる。
30	期末試験(技術確認)	基礎編で習得した技術確認を行い適宜フィードバックを行うことができる。

〔評価について〕

点数配分：確認試験50点(筆記30点、技術確認20点) 期末試験50点(筆記20点、技術確認30点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じてプリントをアップする。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						鳥海 崇			
スポーツ鍼灸		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。
 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。
 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕
 スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。評価の流れを考え、模倣できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	運動鍼の方法と実践①	いくつかの運動鍼の方法を理解できる。 自動運動による運動鍼を実践できる。
2	運動鍼の方法と実践②	他動運動による運動鍼を実践できる。
3	M-testについての考え方と実践①	M-testの考え方を理解できる。
4	M-testについての考え方と実践②	M-testの評価方法を理解・実践できる。
5	スポーツ東洋療法と手技療法について	教本P2～62の理解 基本徒手手技ができる
6	頭板状筋・頸板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電	板状筋・肩甲挙筋の走行を理解し刺鍼できる。
7	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	頸部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
8	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療) 顔面神経・斜角筋群の低周波鍼通電	頸部の評価を実践し、関節への治療を模倣できる。 顔面Nの走行・斜角筋の位置を理解し刺鍼できる。
9	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
10	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療) 肩甲帯筋の低周波鍼通電	肩部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
11	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療) 三角筋・大菱形筋・小菱形筋の低周波鍼通電	三角筋の走行を理解し刺鍼できる。 菱形筋の位置を理解し安全に刺鍼できる。
12	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	肩部の評価方法を実践し、筋または関節への治療を模倣できる。
13	肩部・上肢スポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療) (評価をふまえた局所治療) 胸郭出口症候群(TOS)の考え方 評価と治療	肩部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
14	上肢の低周波鍼通電	上腕二頭筋・上腕三頭筋と前腕筋群の走行を理解し刺鍼できる。
15	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療) 梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電	股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。

〔評価について〕
 評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。
 * 上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

〔特記事項〕
 リスクを考えた上で授業に取り組むこと。
 リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	3	開講区分	通年	担当教員			鳥海 崇		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。													
〔到達目標〕 スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。評価の流れを考え、模倣できるようになる。													
〔使用教材、参考文献等〕							〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕						到達目標(できるようになること)						
16	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療) 梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電*レポート課題						股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。坐骨神経の刺鍼部位を理解し刺鍼できる。						
17	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療と遠隔治療)						股関節の評価方法を実践し、局所・遠隔治療を模倣できる。						
18	腰背部のスポーツ疾患(筋への局所治療)						腰背部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。						
19	腰背部のスポーツ疾患(関節への局所治療)						腰背部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。 椎間・仙腸関節の理解し刺鍼できる						
20	腰背部のスポーツ疾患						股関節の動作改善を合わせた腰背部の治療を模倣できる						
21	確認テスト						テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。						
22	膝関節のスポーツ障害(腸脛靭帯炎・鷲足炎)*レポート課題						膝関節の慢性障害を理解し、対応する筋に治療を模倣できる。						
23	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)						膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。						
24	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)						膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。						
25	足関節・下肢のスポーツ疾患長腓骨筋・短腓骨筋の低周波鍼通電 *レポート課題						足関節・下肢の評価方法を実践し、局所治療を模倣できる。						
26	スポーツ東洋療法と手技療法について						教本P106~133の理解下肢の簡単な徒手手技ができる						
27	スポーツ鍼灸と全身治療①						全身治療の方法を実践できる。						
28	スポーツ鍼灸と全身治療②						全身治療の方法を実践できる。						
29	スポーツ鍼灸と全身治療③						全身治療の方法を実践できる。						
30	確認テスト						テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。						
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。 *上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。							〔特記事項〕 リスクを考えた上で授業に取り組むこと。 リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						東 路子/酒井 大輝			
	実践はりきゅう実技	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。良好な患者－施術者関係を構築するために必要なコミュニケーション能力や鍼灸技術を身につける。臨床能力を育成するためにリスク管理、接遇、カルテ管理、病態把握、治療方針の立案と効果測定が行えることを目的とする。									
〔到達目標〕									
①カルテの記載ができる②鍼灸治療への治療計画を立てることができる③臨床能力を高め実践できる能力を養う									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
東洋医学臨床論（はりきゅう編） ずっと使える！鍼灸臨床BOOK									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	カルテの書き方・医療過誤				カルテの書き方が理解できる。また医療過誤の事例を聞き、リスク管理の重要性について理解できる。				
2	浮腫				浮腫の原因と治療法が理解できる。				
3	食欲不振				食欲不振の原因と治療法が理解できる。				
4	肥満・やせ				肥満・やせの原因と治療法が理解できる。				
5	症例に対する組み立て				疼痛のある事例を基に医療面接から治療までの組み立てを想像することができる。				
6	症例に対する組み立て				疼痛のある事例を基に医療面接から治療までの組み立てができる。				
7	グループでの治療実践				グループ間で医療面接から治療を組み立てて実行し、カルテを記載することができる。				
8	模擬患者に対する治療				模擬患者に対して、医療面接から治療を行う事ができる。				
9	模擬患者に対する治療				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
10	まとめ				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
11	模擬患者に対する生活指導の考察 まとめ				先日行った模擬患者に対して、生活指導を考えてパワーポイントを作成する。				
12	模擬患者に対する治療				模擬患者に対して、医療面接から治療が行える。				
13	模擬患者に対する治療				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
14	まとめ				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
15	発表				症例発表				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価はレポート(確認試験)・発表(期末試験)で行う。レポートで35点分、発表で65点分とする。 評価基準は学則に準ずる。					東洋医学臨床論（はりきゅう編）の教科書を予習復習する				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						東 路子/酒井 大輝			
	実践はりきゅう実技	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。良好な患者－施術者関係を構築するために必要なコミュニケーション能力や鍼灸技術を身につける。臨床能力を育成するためにリスク管理、接遇、カルテ管理、病態把握、治療方針の立案と効果測定が行えることを目的とする。									
〔到達目標〕									
①カルテの記載ができる②鍼灸治療への治療計画を立てることができる③臨床能力を高め実践できる能力を養う									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
東洋医学臨床論（はりきゅう編） ずっと使える！鍼灸臨床BOOK									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	カルテの書き方・医療過誤				カルテの書き方が理解できる。また医療過誤の事例を聞き、リスク管理の重要性について理解できる。				
2	浮腫				浮腫の原因と治療法が理解できる。				
3	食欲不振				食欲不振の原因と治療法が理解できる。				
4	肥満・やせ				肥満・やせの原因と治療法が理解できる。				
5	症例に対する組み立て				疼痛のある事例を基に医療面接から治療までの組み立てを想像することができる。				
6	症例に対する組み立て				疼痛のある事例を基に医療面接から治療までの組み立てができる。				
7	グループでの治療実践				グループ間で医療面接から治療を組み立てて実行し、カルテを記載することができる。				
8	模擬患者に対する治療				模擬患者に対して、医療面接から治療を行う事ができる。				
9	模擬患者に対する治療				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
10	まとめ				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
11	模擬患者に対する生活指導の考察 まとめ				先日行った模擬患者に対して、生活指導を考えてパワーポイントを作成する。				
12	模擬患者に対する治療				模擬患者に対して、医療面接から治療が行える。				
13	模擬患者に対する治療				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
14	まとめ				模擬患者に行った医療面接から治療に対して、グループでカルテとパワーポイントを作成できる。				
15	発表				症例発表				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価はレポート(確認試験)・発表(期末試験)で行う。レポートで35点分、発表で65点分とする。 評価基準は学則に準ずる。					東洋医学臨床論（はりきゅう編）の教科書を予習復習する				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース 授業科目名 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">臨床実習 II</p>	学年 3	開講 区分 通年	担当教員 各実習地指導者又は専任教員	時間数 (単位) 90 (2)	授業 回数 ー
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。 鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。 実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。					
〔到達目標〕 挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。 院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。 デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。					
〔使用教材、参考文献等〕 デイリーノート			〔準備学習・時間外学習〕 コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
2	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
3	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
4	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
5	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
6	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
7	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
8	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
9	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
10	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
11	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
12	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
13	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
14	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
15	鍼灸施術所による臨床実習		実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける		
〔評価について〕 評価は別途評価表で行なう。 評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。		

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース	学年 3	開講 区分 通年	担当教員 専任教員	
授業科目名 総合スポーツ演習Ⅱ	必修/ 選択 必修	授業 形態 実技	時間数 (単位) 30 (1)	授業 回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)				
スポーツ(生涯スポーツ・競技スポーツ)の知見を有する教員が、現場に必要な知識・技術を伝える。 現場や治療院での患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。				
〔到達目標〕 患者に合わせた運動プログラムの作成ができるようになる。スポーツの競技特性が理解できるようになる。				
〔使用教材、参考文献等〕		〔準備学習・時間外学習〕		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)		
1	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。		
2	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。		
3	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。		
4	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成 確認試験	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。		
5	身体評価①	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
6	身体評価②	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
7	身体評価③	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
8	身体評価④	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
9	身体評価⑤	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
10	身体評価⑥	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
11	身体評価⑦	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
12	身体評価⑧	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
13	身体評価⑨	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
14	身体評価⑩	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
15	期末試験	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる		
〔評価について〕 評価は筆記試験(50点)およびレポート(50点)で行う。 評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕		

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	総合基礎特講	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。

基本的な構造および機能について解剖学および生理学の演習を行う。

〔到達目標〕

今まで学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験・鍼灸治療に役立てられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学・生理学（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

復習を継続的に行うこと

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	第9章 神経系	神経系の構成、脳神経を理解する。
2	第9章 神経系	伝導路の構造を理解する。
3	第9章 神経系	中枢神経の構造を理解する。
4	第9章 神経系	脊髄神経の構造を理解する。
5	第9章 神経系	自律神経の構造を理解する。
6	確認テスト①	1～5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	第4章 循環障害	循環障害を理解する。
8	第5章 退行性病変	退行性病変を理解する。
9	第5章 退行性病変	退行性病変を理解する。
10	第7章 炎症	炎症を理解する。
11	第8章 腫瘍	腫瘍を理解する。
12	第9章 免疫異常・アレルギー	免疫とアレルギーを理解する。
13	第10章 先天性異常	先天性異常を理解する。
14	確認テスト②	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答解説	期末試験の解答解説を行う。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト3回と期末テスト1回の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						藤掛 雅博/進藤 千聖			
総合基礎特講		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。

基本的な構造および機能について解剖学および生理学の演習を行う。

〔到達目標〕

今まで学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験・鍼灸治療に役立てられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学・生理学（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

復習を継続的にを行うこと

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	呼吸器の生理	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
17	消化と吸収①基本的メカニズム	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
18	消化と吸収②代謝	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
19	代謝・体温	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
20	感覚器の生理	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
21	感覚と運動の生理	各器官のメカニズムを理解し問題演習で知識を活用することができる。
22	はりきゅう理論：鍼	鍼の基本的な理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
23	はりきゅう理論：鍼	鍼の基本的な理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
24	確認試験	習熟度の確認を行い更に知識を深める。
25	はりきゅう理論：治効理論	鍼灸の治効理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
26	はりきゅう理論：治効理論	鍼灸の治効理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
27	はりきゅう理論：治効理論	鍼灸の治効理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
28	はりきゅう理論：治効理論	鍼灸の治効理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
29	はりきゅう理論：治効理論	鍼灸の治効理論を理解し問題演習で知識を活用することができる。
30	期末試験	習熟度の確認を行い更に知識を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト3回と期末テスト1回の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						深山 俊			
	総合臨床特講	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、複雑であり多様化している現代の疾患について様々な角度から知識習得の促しを行う。こうしたことから、鍼灸師もより高度な技術や知識が求められる。臨床医学各論を様々な科目と組み合わせ、理解を深めていく講義を徹底する。

〔到達目標〕

臨床医学各論、臨床医学総論を理解するために、国家試験問題を基礎に臨床でも役立つことができる知識を習得することを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学総論・臨床医学各論(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

復習を継続的にすること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	第6章 内分泌疾患	分泌過剰と分泌抑制の症状を理解する。
2	第4章 呼吸器疾患	呼吸器の疾患を理解する。
3	第2章 消化管疾患	消化器疾患を理解する。
4	第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓、胆のう、膵臓の疾患を理解する。
5	第5章 腎・尿器疾患 第7章 代謝・栄養疾患	腎から尿器までの構造と機能を復習し、疾患を理解する。
6	確認テスト	1～5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	第8章 整形外科疾患	関節疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患を理解する。
8	第8章 整形外科疾患	骨代謝性疾患、脊髄損傷と外傷、その他の整形外科疾患を理解する。
9	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病について理解する。
10	第13章 その他の領域	皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患を理解する。
11	第13章 その他の領域	一般外科、麻酔科、婦人科疾患を理解する。
12	第13章 その他の領域	小児科疾患、精神科疾患、心療内科を理解する。
13	第1章 感染症	病原微生物の種類を区別することができるようになる。
14	期末試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答解説	期末試験の解答解説を行う。

〔評価について〕

評価は 筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの
合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						専任教員			
卒業演習		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸の教員免許を有する専任教員が、臨床に必要な知識(基礎科目・臨床科目・臨床推論)を修得できるよう。講義や演習、ケーススタディなどを総合的に行う。

〔到達目標〕

基礎知識が向上し、症例に対する臨床推論ができるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

配布プリント

〔準備学習・時間外学習〕

臨床上必要な知識であるため、予習復習を行い知識定着に努める。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
2	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
3	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
4	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
5	臨床知識の習熟 (臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
6	臨床知識の習熟 (臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
7	臨床知識の習熟 (臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
8	臨床知識の習熟 (臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
9	ケーススタディ(西洋医学疾患)	症例を基に疾患推名・治療法を考察できる。
10	ケーススタディ(東洋医学疾患)	症例を基に疾患推名・治療法を考察できる。
11	臨床推論力向上講座	臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる
12	臨床推論力向上講座	臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる
13	臨床推論力向上講座	臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる
14	臨床推論力向上講座	臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる
15	臨床推論力向上講座	臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる

〔評価について〕

評価は成果物(レポート)の提出や筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕